

令和6年度 府立北桑田高等学校 美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

( 実施段階 )

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。</p> <p>2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。</p> <p>3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。</p>	<p>〔成果〕</p> <p>1 基礎基本の定着に重点を置いた授業を展開し、学習成果発表の機会を多く設けて生徒の学習意欲の向上につなげることができた。</p> <p>2 生徒個々の持つ課題をS.C.やS.S.W.、行政関係機関や医療と連携して、個別最適な指導につなげることができた。</p> <p>3 美山の地域人材や地域の文化に関わって特色ある取組みを促進し、広報にも活用することができた。</p> <p>4 地域人材による専門的技術の指導や、校内での資格取得講座の充実により、専門学科に関する資格取得者が増加した。</p> <p>〔課題〕</p> <p>1 生徒の学習用端末使用頻度について、教科間で違いが生じている。</p> <p>2 資格取得について、学科間で差が生じている。</p> <p>3 「働きながら学ぶ」学校目標ではあるが、就労率が40%弱である。</p> <p>4 ホームページによる情報発信について課題が残る。</p>	<p>1 学習用端末の活用に関わって、教材・指導方法の工夫改善について研修を活用し、充実を図る。</p> <p>2 学科の学習内容に応じた資格取得について、授業内を利用して受験を勧め、必要に応じて補習も実施し、資格取得者の増加を目指す。また受検を通じたキャリア意識や専門力の向上を図る。</p> <p>3 小論文指導や面接講座など生徒のニーズに応じた適切な教育的支援を行い、進路実現を図る。</p> <p>4 働きながら学ぶという目標のもと、就労を通じた社会性獲得を図る。</p> <p>5 個に応じた充実した支援・指導のため、関係機関や医療等の連携を継続し、プラットフォームとしての機能を果たす。</p> <p>6 専門学科の特色的取組や部活動、学校行事について、広報を積極的にに行い、外から見える学校づくりを進める。</p> <p>7 安心安全な学校づくりを進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題		
組織・運営 (管理職)	教職員の資質・能力の向上を図る。	教職員間や関係機関、地域と積極的に交流し、研修を計画的に活用することで、課題解決能力の向上に努める。 ICTの利活用促進や探求的な学習の指導を工夫し、生徒の興味関心を高めるノウハウの構築を目指す。	B B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状での課題に基づく計画的な校内研修を実施し、校務運営に反映させることができた。</li> <li>・課題となっていた専門学科におけるICT利活用を試み、次年度以降の積極的な利用の方向性を示すことができた。</li> <li>・内部規定を見直し、整理することができた。</li> <li>・ホームページの修正を行い、使用しやすくするとともに、定期的な更新も行うことができた。</li> <li>・SNS連絡ツールを使用して生徒・家庭連絡、育友会活動やアンケート収集等を行い、業務負担軽減を促進することができた。</li> </ul>	
	組織的、計画的な指導体制を確立する。	小規模校の強みを生かし、教職員の連携を意識し、計画的な教育実践を通じて教育目標の達成を図る。 内部規定を整理し共有することで、効率的な校務運営を目指す。	A A			
	分掌間の連携や分掌業務の見直しで負担軽減を図る。	ICTを活用した情報発信力の強化と情報共有を促進し、業務負担の軽減を目指す。	A A			
教育課程 (教務部)	学校の特色を生かした教育課程の編成	学科に応じた特色ある教育課程を編成し、評価、改善に取り組む。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力をいかに定着させるかという点を中心に、生徒の状況に対応した教育課程を計画し実施することができた。</li> <li>・新学習指導要領についての最新の情報を入手しながら、その趣旨が生かされるように教育課程を改善し、効果を確認した。</li> <li>・課題として、進路実現等で応用的学力の伸長が必要な生徒に対しては、教科ごとの個別指導で一定対応したが、十分でなかった。</li> </ul>	
		生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程を編成し、評価、改善に取り組む。	A A			
		生徒の進路実現に向けた教育課程を編成し、評価、改善に取り組む。	B			
新学習指導要領に則した教育課程の編成と観点別評価の実施	新学習指導要領が導入されて4年目になる本年度においては、最新の情報を入手しつつ効果的な編成ができるよう努力を継続する。	A	A			
	最新の情報を入手しつつ、観点別評価がより適正に実施できるよう努力する。	A				
教科指導 (教務部)	各教科の目標を明確にして、計画的な指導を実践する。	シラバスにおいて年間計画を提示し、それに基づいた計画的な指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初にシラバスを作成し、それに基づいて計画的に教科指導を行った。</li> <li>・公開授業を通じて教科担当者間の交流を図り、教科指導力の向上に努めた。</li> <li>・課題として、年間指導計画の学期ごとの見直しについては、教科担当者の自主性に委ねており、徹底することができなかった。</li> </ul>	
		授業公開を通して課題を明確にし、授業改善を図る。	A			
	個々の生徒の学力を充実させる。	個々の生徒の学力、理解の程度を把握しつつ、定期的に指導計画の点検と見直しを行う。	B			B
		学習習慣の確立や基礎事項の反復等、基礎学力の定着を可能にする工夫をする。	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
特別活動 (生徒指導部)	計画的で充実したホームルーム活動を実施する。	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画のもと、ホームルーム経営の改善・工夫に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数は少ないが、生徒会活動の活性化が図られ、生徒の意気が高揚している。</li> <li>・生徒会幹部役員が自発的な行事運営を行い、生徒指導部が所管する行事が成功を収めて生徒の成長の一助となった。また、生徒全体の学校への帰属意識も高まった。</li> </ul>
		他学年や各分掌と連携しながら、各学年の生徒状況に応じた、適切なホームルーム内容になるよう努める。	B		
	主体的な生徒会活動や創意工夫した学校行事を計画、実施する。	生徒の意見が反映された学校行事になるよう創意工夫をし、行事を通して生徒が満足感、達成感を感じられるような生徒主体の取組になるよう努める。	A	A	
		生徒会や各局の日頃から活動を通して、生徒同士や教職員とのつながりを深め、よりよい学校生活にする。	A		
進路指導 (進路指導部)	「働きながら学ぶ」を実現できるように指導する	就労先と連携し、就労を継続させることにより、社会性を獲得させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生生徒、保護者に対して、担任と連携して丁寧な指導を行い、希望進路を決定することができた。</li> <li>・支援を要する生徒の進路に関して、関係機関と連絡を取りながら丁寧な対応を行い、内定後も4月からの支援体制を確認する連絡会議を設けることができた。</li> <li>・未就労生徒に対しての指導については、個々への働きかけは出来たが、全体的な取り組みはできなかった。</li> </ul>
		不就労生徒への援助・指導を行い、就労に必要なスキルを高める。	B		
	自己の能力と適性を把握して希望進路の実現を目指す	生徒個々に対応した進路指導を行い、卒業予定者全員の進路決定を目指す。	A	A	
		支援を要する生徒の進路を関係機関と連携して決定していく。	A		
		下級生の進路意識高揚に努める。	B		
生徒指導 (生徒指導部)	問題事象の未然防止や早期発見ができる体制を構築する。	規則を順守させ、規範意識を定着させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度と比較し、指導件数は大幅に減少した。原付免許の無届取得・乗車が複数件あり、交通関連の指導が目立った。</li> <li>・校則について生徒の要望を調査し、現行の校則に対して肯定的に捉えていることがわかった。</li> <li>・課題として、身だしなみ指導の違反者に対して、時間をかけ丁寧な指導を継続したが、改善には至らなかった。</li> <li>・原付乗車を許可制にて認めているが、届出・手続きが不十分な生徒による事故が発生し、今後の指導方法に課題を残した。</li> </ul>
		各分掌や教職員と連携を密にし、生徒の状況把握に努め、問題事象の未然予防や早期発見につなげる。	B		
		学校外で問題事象がおこった場合、地域や関係機関と連携し適切に対応するよう努める。	A		
	信頼、思いやりに基づく人間関係の育成に努力する。	相手を思いやる気持ちを育み、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。	B	B	
		いじめや他人を傷つける行動・言動を撲滅するため、人権教育と連携し指導にあたる。	A		
		あいさつの励行、適切な言葉づかい、適切な服装の着こなしができるよう指導する。	B		
人権教育 (人権社会教育)	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	生徒の社会的自立に向けた支援のための学習を計画的、組織的に実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画のに基づき、人権教育を行うことができた。</li> <li>・社会的自立に向けた支援や人権意識を高める指導は、教科指導を通じてでも行われており、学校教育全体を通じて人権意識の涵養に取り組めた。</li> <li>・人権意識が低い一部の生徒に対して、人権意識を高める取り組みを増やしていくことがこれからの課題となる。</li> </ul>
		全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を行う。	B		
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため、教科学習の指導を充実させる。	A		
		人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みを行う。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
研究・研修	教科指導力・生徒指導力の向上に努める。	学校の課題を明確化し、課題に合わせた研修を計画的に実施して、課題解決を目指す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間研修計画において分掌・教科の課題に基づく研修内容精選が行われ、効果的な研修が実施できた。また研修内容は校務に反映された。</li> <li>校内規定や生徒規則について整理、更新、変更の議論を進め、改善することができた。</li> </ul>
		生徒規則や校内規定について、本校や他校の規則・規定と比較、検討を行い改善を図る。	A		
健康・安全教育 (保健部)	生徒自らの健康管理能力を高める。 支援が必要な生徒の適切な支援をする。	生徒一人一人と丁寧にに関わり、生徒の自己理解を促し、生徒自身が心身の健康について自分でコントロールする力とともに、困り事や自分で解決しにくい問題について周りに助けを求め力を身につけられるように指導する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間での生徒情報の交流を密に行って情報共有に努め、教育活動全般において、状況に応じた効果的な指導を行うことができた。</li> <li>個別の支援計画や指導計画の整備活用も進み、支援を要する生徒の学習効果を高めることができてきた。</li> <li>口丹地域立学校特別支援研究協議会事務局を担当し、校内研修にも位置づけた講演会も開催して、他校の支援体制や実践を学ぶことができたが、学校全体での取組とはなりにくかった。</li> </ul>
		保護者、関係機関と連携をとり、教職員全体で生徒の特性について共通理解を図り、それぞれの生徒の特性に合った支援により、生徒の能力を最大限引き出せるようにする。	B		
施設・設備管理 (事務部)	施設設備の点検を日常的に行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の定期点検を実施し、危機対応へ備える。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調設備の更新、職員室の床面工事、校内溝蓋の設置などを進め、安全、安心な環境づくりを進めた。</li> </ul>
		教育職員との連携によって、適切な教育環境の維持や、設備改善、安全管理に努める。	A		
		施設設備の安全で適正な使用を促し、効率的な経費の分配を目指す。	A		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、知識や思考力を身につける	座学では、農業に関する知識の蓄積や、科学的な考察のしかたを学ぶ。また、実験・実習を通して体験的、実践的な農業教育を展開する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の特性を理解・考慮しながら、適切な実験実習の指導を行うことができた。</li> <li>特に実習科目において、丁寧な説明によって効果的な技術、知識の習得を目指したが、主体的な学びの実現には課題が残った。</li> <li>農場運営については、各学科分掌と連携をとりながら授業や行事との調整を密に行い、円滑な運営に取り組むことができた。ただし、安全確保と作物栽培の観点から、これまで以上の高温期の対策が急務である。</li> <li>農業クラブ活動の活性化や生徒の資格取得向上に課題が残った。</li> </ul>
		実験・実習を通して、集団内での連携・協調を促す。	B		
		学年・生徒ごとの実態に応じた学習内容を検討し、指導方法を工夫する。	A		
	校外で連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育む	農業クラブ活動（競技会成績・資格取得・関連行事等）の活性化を目指す。	B		
		農場生産物の品質向上を目指すとともに販売を積極的に行い、地域への貢献を図る。	A		
		家政科との連携を強化し、美山分校の教育活動全般を活発化させる。	A		
家政科	家庭の生活やそれに関わる産業に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	個々の適性に合わせた指導法、教材を研究し、専門的知識と技術の定着につなげる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団指導での授業進行において、学習に遅れが生じた生徒の補正に時間を要した。個別最適な学びにつながる指導には課題が残った。</li> <li>家庭クラブにおいて、上級生が下級生を指導し、技術や知識の引き継ぎが実践されていた。特に、4年生はリーダーとして自覚を持ち行動できた。</li> <li>積極性や主体性をもって、初めての取組や課題解決的な学習に取り組んで欲しいが、受け身な姿勢で活動する生徒が多く、4年間を通じた意識改善が求められる。</li> <li>2学科の特性を生かした連携活動の充実に課題が残った。</li> </ul>
		外部講師を活用した体験的かつ専門的な学びの機会を設定する。	A		
		課題解決的な学習を通して、主体的に学ぶ態度を育て、生徒一人ひとりの達成感につなげる。	B		
	学習したことを活かし、自分や家族、地域のより良い暮らしにつなげる意識を育てる	農業科と連携し、地域とつながり、地域社会の活性化に貢献する取組となるようにする。	B		
		持続可能な社会の実現について深く理解し、学んだことを実践し、発信する力をつける。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第1学年	高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	授業に集中できるように学習環境を整え、基本的学習習慣を身につけるとともに、基礎的な学力の定着を目指す。	A	B ・定期的な面談を行うことで、学習面や生活面における現状把握をしながら、今後の方向性など、相互に確認しながら進めることができた。特に、毎月の予定や調査範囲を確認しながら、計画を立てて学習するよう進めることができた。 ・HR活動を通じて仲間意識や他者を思いやる気持ちが芽生え、主体的に取り組もうとする姿がみられた。 ・今後は身についた学習習慣を継続させるとともに、さらに自主性を持って学習に取り組む姿勢が求められる。また、自分本位ではなく、クラス全体、学校全体のことを考えられる2年生になる必要がある。
		主体的に考え、自己の行動に責任を持たせるように努める。	B	
		他者を思いやる気持ちを育む学級運営をする。	B	
		HR活動・学校行事に自主的に参加できるように働きかける。	B	
第2学年	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な態度・マナーの定着を目指す。	基本的な生活習慣を身につけるためのソーシャルスキルトレーニングを行う。	B	B ・机上やロッカーの整理整頓、挨拶等の基本的な生活習慣に関する指導を行った。一年次より個々の意識が向上し、改善が見られたが、その継続には課題を残す生徒もおり、継続的な指導が求められる。 ・面談を行うことで生徒の実態を把握し、発達段階に応じた指導を行うことができた。 ・行事への取組を通して、互いの意見を尊重しながら協働することができるようになった。困りを抱える生徒を支え、間違った行動は改善を求めるなど、よりよい関係性の構築ができた。
		個々の生徒の実態や発達段階に応じた支援・指導を行う。	B	
	他者との関わりを通して、より良い人格形成を目指す。	集団の一員としての自覚を持ち、自己の役割を全うするだけでなく、他者を思いやり行動する態度を養う。	B	
		日々の学習や学校行事の取組を通して、周囲と協力して物事に取り組む機会を設ける	A	
第3学年	他者との関わりを通して、社会人として必要な資質や基本的な態度やマナーを身に付ける。	生徒一人一人の特性や発達段階に応じて、個々の生徒が活躍できる機会を設ける。	A	B ・修学旅行や文化祭等の学校行事を通し、生徒主導でのグループ活動の機会を多く設けることができた。自主自立的な活動を通して人との関わり方や集団での役割について体験的に学ぶことができた。 ・就労について考える機会を多く設け、前向きに検討する生徒を増やすことができたが、就労の実現に至らない者もおり、指導の継続が求められる。 ・卒業後の進路実現について、HRや定期考査ごとの面談を通じて考える機会を多く設け、進路希望の具体化に努めた。しかし、まだ進路に関して十分に考えることができていない生徒もいるため、指導を継続したい。
		グループ活動を設け、自主的・自律的な活動を促す。	B	
		就労を促し、実社会に関わる機会を設ける。	B	
	卒業後の進路実現を見据え、自己理解を深める。	生徒が卒業後の進路を意識できるように、キャリア教育の充実を図る。	B	
		生徒が客観的に自分自身を理解するための取組を行い、進路選択につなげる。	A	
			A	
第4学年部	生徒一人一人の特性、興味、関心に応じた進路実現を目指す。	生徒一人一人の特性や発達段階に応じた進路を実現にできるようにサポートする。	A	A ・保護者と密に連携して進路決定を目指すことができた。また入試に向けて生徒の特性や発達段階に応じたサポートを行うことで、生徒は進路実現に向けて努力することができた。 ・卒業後の生活を見据えたソーシャルスキルトレーニングや外部機関と連携した講座の実施等を行ってきたが、一部に就労に自信を待てず卒業を迎える生徒がおり、主体的に就労と向き合うため取組みについて今後検討する必要がある。 ・生徒会活動や部活動、農業クラブ、家庭クラブの活動など、活躍できる機会を多く設けることができ、最高学年として学校全体のことを考えて学校行事の企画・運営に勤しむ生徒たちの姿が見られた。自らが携わった学校行事の成功によって、自信を持って卒業を迎える生徒が多い。
		就労を促して実社会に関わる機会を設け、社会人としてのマナーを身に付けられるよう指導する。	B	
		卒業後の生活を見据え、社会人として必要な知識やソーシャルスキルを身に付けるための取組を行う。	A	
	他者との関わりを通して、よりよい人格の形成を目指す。	個々の生徒が活躍できる機会を設け、生徒の自己有用感を高める。	A	
		生徒が最高学年としての自覚を持ち、学校全体のことを考えて行動できるよう指導する。	A	
			A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	国語の知識や技能の定着を図り、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高める。	実社会に必要な国語の知識や技能の定着を図る。	B	B ・タブレットを活用して情報の整理や文章構成を考える作業を行ったことで、主体的に文章と向き合う生徒たちの姿が見られた。さらに小論文指導において文章構成の型や説得力のある文章の書き方等を丁寧に指導することで、作文に苦手意識を持っていた生徒たちも小論文に挑戦することができた。 ・ビブリオバトルの実施によって読書へ興味を持つ生徒が増えたが、読書習慣の定着にはつながらなかった。また基礎学力においても成果は見られなかった。来年度は定着させるための工夫を検討していきたい。
		小論文指導の充実を図る。	A	
		ICTを活用した言語活動の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫を施す。	A	
		図書館を充実させ、読書習慣の定着を図る。	B	
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	各単元で必要とされる基礎知識を復習してから授業に入るようにする。	B	A ・生徒が高校数学を理解し易いように、予備知識を補強した上で授業に入るようにした。全時間プロジェクターを使うようになった。 ・理解不十分な生徒に対しては個々の弱点等を把握し効果的な指導を心掛けた。 ・課題として、一部に授業内容の難易度が上がると集中力が途切れる生徒がいた。 ・1年生は各自タブレットを持つことになったが、タブレットの活用には課題が残った。
		プロジェクターを利用して視覚的にも分かり易い授業を行う。	A	
		考える時間や演習を多く設け、生徒が受け身にならないように配慮する。	B	
		理解が不十分な生徒には個別指導を行う機会を設ける。	A	
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能の向上や健全な心身の発達を目指す。	体育の学習を通して、体力や運動技能を向上させるとともに、運動に対する知識理解を深める。	B	B ・体育では、個々の技能に応じた目標設定を行い、その達成に向けた課題解決に取り組むことができる生徒が増えた。しかし、一部には、苦手な種目と向き合えずに活動量が減ってしまう生徒がおり、次年度の課題である。また、ゲームの運営や準備片付けについてはそれぞれ与えられた役割を全うし滞りなく学習を進めることができた。 ・保健では、学習内容を既習事項とも関連させながら実生活に生かす方法を考えることが一定できた。しかし、学習内容によっては自分のこととして上手くとらえることができずに、自己の課題に対して合わない解決方法を記述している場面も見られたため、今後は学習段階でそれぞれが自己の課題として向き合えるような学習展開を構築していく必要がある。
		体育の学習を通して、公正、協力、責任などの態度を育てる。	A	
		保健の学習を通して、健康で安全な生活を送るための基盤を養う。	A	
		保健の学習を通して、環境問題・健康問題についての課題を発見し、その解決に向けて思考し判断することができる力を身に付け、実生活に生かせるようにする。	B	
		レポート作成の課題を通して、環境問題や健康に対する知識理解を自ら深めるとともに、他者に伝える力を養う。	B	
英語科	中学校での学習を土台にしながら、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	聴く、読む、話す、書くという四技能をバランスよく学習させる。	A	A ・英語指導助手との授業において、外国の文化等についての理解を深める授業を行えた。 ・重要な項目を繰り返し学習することで、基礎力の定着を図った。また、理解をできるだけ容易にするため、教材の工夫に努めた。 ・課題として、応用力の伸長のための指導に改善の余地がある。
		言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。	A	
		英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。	A	
		必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。	B	
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。	B	

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
家庭・地域社会との連携 (管理職)	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係教育機関との連携、協力を進める。	面談・家庭訪問、学校行事などの機会を活用し、家庭・保護者との連携を深める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポストコロナの育友会活動について、育友会での意見交流を重ね、試行的ではあったが、行事の復活、整理を進めて、活性化を図った。</li> <li>・専門学科の学習において地域人材を積極的に活用し、専門性向上に役立てることができた。</li> <li>・情報を閲覧しやすくするため、ホームページの修正を行った。</li> </ul>
		地域の人材や関係諸機関の機能を活用し、地域に貢献する活動を進める。	A		
		パンフレットやホームページ等を活用しつつ、効果的な広報の検討を進める。	B		
		育友会事業について、充実と負担軽減を図り、参加しやすい運営に努める。	A		
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業科、家政科は教育課程を工夫し、生徒の興味関心を高めて専門教育の充実に対して努力しているが、学習内容に係る進路選択が少ないのが課題ではないか。また、資格取得の指導について頑張っ欲しい。</li> <li>・分校の生徒は郊外でも落ち着いており、きちんと挨拶をしてくれる。学校行事を見学したが、生徒数は少ないが充実した内容で生徒の取組状況も良かった。今後も学校運営に励んでほしい。</li> <li>・体育館使用が使用できないことについて、改善のための努力を強く求める。体育授業について、近隣小学校の体育館を使用することで対応しているようだが、学校行事でも体育館を使用することも多く、結論として教育目標が達成できていないのではないか。</li> </ul>				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業科や家政科の学習内容に関わる資格取得については、授業内容と重なる部分もあり、授業での対策も充実させて資格取得を促進したい。また、進路選択については、生徒、家庭の進路希望を優先し、これに添うように指導を行っているため、必ずしも学習内容に係る進路とはならないが、社会人講師などを活用して農業や家政分野の仕事への関心を高めたい。</li> <li>・生活指導部を中心に生徒会活動の活性化や学校行事の充実努めてきた。行事を通じて生徒の自己肯定感も高まっている。一方で、生徒と教員の負担が多いため、行事の整理や内容の工夫をして、負担を軽減しつつ教育効果の維持を図りたい。</li> <li>・体育館を含めて、体育施設の改善については府に強く要望している。改善されるまで継続したい。</li> </ul>				